

4 構造

4-1 機能

1. 腹部・胸部にあるカートリッジボンベ及び、キーボックスの部分には、事故の際それらの突起物が原因となる衝撃を緩和させるために、緩衝材付のABS製プロテクターが取り付けられています。
2. 一定の距離離れた瞬間作動し、炭酸ガスを送り込みますので、最大限に膨らむまでも、衝撃を緩和する効果があります。
3. 作動の有無に限らず、ウエアーの生地・布地、ケブラー、皮及び、気室に傷がついたり、破損した場合は、正常な作動をしません。取扱店に相談して下さい。再生出来ない場合があります。
4. 事故などで作動し、傷、破損等が見当たらない場合でも取扱店にてメンテナンスチェック(※3)を行ってから再生する事をお勧めします。
5. 最大に膨らんだ後自動的に、ガス抜きバルブからガスが抜ける仕組みとなっています。衝撃の圧迫の度合などにより、抜け方は変わりますが、作動した直後、身体への圧迫がありますが、ゆっくりと、5～10秒程かけ少しずつガスが抜けて圧迫がなくなって行きます。息苦しい場合は、ファスナー等はずして、圧迫を解消して下さい。

(※3)メンテナンスチェックとは、ウエアーなどに、傷、破損が見当たらずとも、その中に組み込まれている気室に破損がある場合があります。その為に、取扱店等により一度、各気室に空気を入れ、漏れがないか、又、組み込まれた部品に異常がないかを確認する作業をいいます。

4-2 キーボックス

(写真1)この装置は、通常約25kg～35kg程度で伸縮ワイヤーを引っ張る力により、キーボールが抜けて、キーボックス内に組み込んである圧縮バネが針と連動し、カートリッジボンベの封板に穴をあけてガスを送り、作動させます。着用時、前方どの方向から引っ張ってもキーボールが抜ける仕組みとなっています。

警告 ⚠ 1. ガード(赤)が下にスライドされたロックの状態では、事故時に作動しないだけでなく、キーボールがキーボックスから抜けられないため大きな事故につながる危険もあります。使用時は必ずガードが上(フリー)の位置にあることを確認して下さい。(写真2)

注意 ⚠ 2. ガードがロックの状態でも、大きな力で引っ張られた場合、キーボックスが壊れ作動する事があります。又、すぐに作動しなくても、ガードを戻した時などに、急に作動する場合があります。

注意 ⚠ 3. キーボックスを分解したり、部品をはずさないで下さい。

注意 ⚠ 4. カートリッジボンベを右に回し、キーボックスの取付ネジ部分に根元までねじ込んで下さい。異常が感じられる場合は取扱店にご相談下さい。

写真1

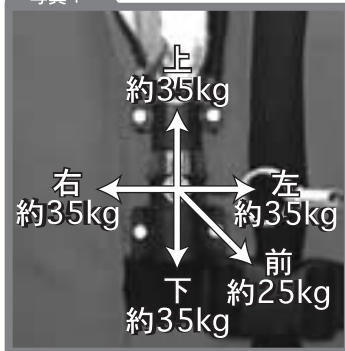


写真2

